

令和8年度第1回芽室町総合計画審議会評価専門部会 B-1

参加者： 櫻田副部会長、津本委員、川合委員、西川委員、村山委員

○進行方法説明

事務局

会議の進め方を説明。

○ 2025 年度(令和7年度)施策実績評価について

①徹底した情報共有と町民参加の促進

・質問

委員

課題認識について、芽室未来ミーティングに気軽に参加できるとあるが、参加することが目的になっており開催方法以外は検討の余地がなかったのか？

横山係長

定例型と巡回型は敷居が高いと感じられていると考え、気軽にと記載した。

みなくる祭りの時に町長室を開放したり、子育て世代対象で行ったりしたが、定例と違う年齢層の人たちに来てもらいコミュニケーションをとっていきたい。同様がいいのか改善がいいのかという部分で記載した。

委員

町民参加の促進について、情報共有は記載があるが、町民参加の促進がどこに書かれているのか？

横山係長

施策上で出てきていない。成果指標を踏まえて記載したが、読み取る部分がない。次期策定では指標で表すことができないか検討中。

委員

2200 万円かけて、どのような広報事業を行っているか知りたい。

横山係長

事業で行くと、広報誌や SNS となる。予算面で見ると広報誌がメインとなる。

1300 万円以上が発行にかかっている。(7300 部)

次点で HP 等の更新。

- 評価について（庁内評価 C）

C 評価 4 名。D 評価 1 名。

SNS の活用等で町民が情報に触れる機会は増えている。

指標自体は下がっていること。行政情報の公開や説明責任が果たされているかは懸念点。

- 今後の取組について

委員

芽室未来ミーティングの気軽に参加できる参加方法の中で、多様なニーズに対応した対話を考えてもらいたい。町長だけでなく、各課との対話の方が近い対話ができると思う。

また、オンラインやメタバース等のツール活用も考えてみては？

横山係長

各課に意見共有は可能なので、そのような場を設けていきたい。また、YouTube で 2 回ほど未来ミーティングを行ってみた経緯もあり、テーマが定まっていた方は手応えがあり 1 つの手法になり得ると考えている。さらに、テキスト入力で会話するプラットフォームも検討中であり、様々な手法を模索したい。

委員

- 1、国の流れとして DX が進んでいるので、この施策についても進めてもらいたい。（意見）
- 2、少数排除という意味では全くないが、ホットボイスの基準を見直す時期に来ていると考える。

横山係長

ホットボイスについては、町民の声を施策に反映する目的もあるが、減ってきていることに課題は感じている為、見直しも必要である。

委員

アナログ手法を残してほしいという声があるが、方法の検討は？

横山係長

メインは広報誌とし、LINE や HP から飛べるようにしデジタルと併用していく考え。

②有効な土地利用の促進

・質問

委員

施策の事業費が 2023.2024 と続けて大幅増加し、2025 で減少した理由を知りたい。

佐藤補佐

事務事業の統廃合を行って、集会施設で1億4千万ぐらい増えている。

それ以外は細かい委託料や測量費の経費で増えた。

委員

工業団地を新しく進めたことはこの施策に含まれているか？

佐藤補佐

土地利用の観点では含まれるが、費用系は特別会計で行っている為含まれない。

委員

工業団地が進んだ評価をしたい場合ここにいたら間違いか？

佐藤補佐

想定していた土地を計画通り利用できたという評価であれば、ここで良い。

委員

成果指標①の目標値で、過去の緩やかな推移的に7140戸を達成は難しいと思うが、取組の延長で達成できることになっている。経緯を教えてほしい。

佐藤補佐

住宅戸数の推移だと難しいが、土地利用の観点で街中の公営住宅だった土地を売ったりする中で、既に関手がついていたり、需要と供給の兼ね合いはあるが、前進していると判断した。

委員

子育て世代が安心して定住できる環境とは？

佐藤補佐

ピウカ公園の下台を分譲した際、その層をターゲットにした。今は町ではなく、住宅メーカーで分譲しており、直近だと芽小前の土地に着工しており、学校が近い等で安心できると

考える。

- ・評価について（庁内評価 C）

C 評価5名

工業団地での土地利用が進んでいること、人口減少の中でも住宅着工が前進し若い世代も増えている。

- ・取組について

委員

街中の空洞化防止に努めてほしい。（意見）

委員

住宅費用が高騰しており、町有地を活用して少しでも安くなるよう促進して欲しい。

佐藤補佐

空いている未利用地を宅地にできるよう続けていきたい。

委員

成果指標の見直し。戸数の数字は見やすいが、今後の人口増加が難しいため他の表が必要では？また、住んでいる人からの土地利用であるとの評価をとるものの方が良いのでは？

佐藤補佐

6期総では工夫が必要な部分であると認識している。シンプルな人口増加が良いのか、生活圏を集約し生活がそこで完結するコンパクトシティが良いのか検討していきたい。

③快適な住環境の整備

- ・質問

委員

花菖蒲園の維持管理事業について、災害の被害を受けて花菖蒲が減っているが、現状の状況を教えてほしい。

齋藤課長

H28年の災害前と比べたら少ない。ここ数年の高温で、株分けしたものが育っていないことや根付きの問題も増えない要因の1つである。今年度は綺麗に育っている株もあるので、来年度は少し改善されと考えている。色々な部分を整備していきたい。

- ・評価について（庁内評価 C）

C 評価5名

公園整備や菖蒲園の復興等で全体的に前進している。

- ・今後の取組について

委員（意見）

芽室公園の再整備構想について、まちなかへの誘導を取り入れてもらいたい。

また、芽室蔡場整備にも取り組んでももらいたい。

委員

町内の空き家について、亡くなった後の未相続問題を想像しているが、相続登記の窓口や専門家との連携を強化して空き家対策を強化してもらいたい。

橋本課長

空き家対策としては、魅力創造課と連携して窓口を設けている為、周知をしていきたい。